

—大雪山のアイヌ語地名⑤—

前回は明治十九年に北海道庁が設置され、その設置を祝うように、北海道庁の規範地図となった『改正北海道全図』が、明治二十一年に内務省地理局から刊行され、その地図に北海道中央高地の主な山岳名が、次のように掲載されたことを紹介した。

- ①ニセエイカウシペイ山
- ②東ヲフタテシケ
- ③チュツペツ山
- ④ペテツトウシカムイシリ
- ⑤石狩岳
- ⑥西ヲフタテシケ
- ⑦トンラウシ山
- ⑧十勝岳

断章 旭川のアイヌ語地名研究

(171) 高橋 基

この山岳名で、初めて、「②東ヲフタテシケ」と、「⑥西ヲフタテシケ」が掲載されたのである。これは、「ヲフタテシケ」という名称の山が東と西にあるので、「東ヲフタテシケ」と、「西ヲフタテシケ」としたものと推測される。

文化四年(一八〇七年)に、天塩川筋から山越えして、石狩川筋のタナシ(現・棚瀬山二二四・四^び)に着き、石狩川を下った近藤重蔵が、比布の番屋に一泊し、再び石狩川を丸木舟で下る時に、「此辺より石狩川上の山ヲツタテシケ(註一旭岳見ゆ」と書いたのが、旭川市での最古の「ヲツタテシケ(オプタテシケ)」の記録である。

明治二十三年、永田方正(まうま)は旭川のアイヌ語地名を調査し、明治二十四年刊行の『北海道蝦夷語地名解』

で、「アンダロフ川筋(註一現・安足間川筋)」の最後の項目で、次のように書いた。

又タクカムウシユベ、(nuttakam ush be)一類山↓アンダロマ川ノ水源ナリ。岩山ニテ草木ナシ。高橋図(註一高橋不二雄作成の『改正北海道全図』)ニ東ヲフタテシケトアルハ非ナリ。

当連載⑩でも紹介したように、明治十七年に内務省地理局の高橋不二雄は、札幌県地理課の福土成豊と、明治七年のライマンや明治九年の松本十郎の調査に同行した経験のある、アイヌのアヤシの案内で、安足間川から「ヲフタテシケ山(現・旭岳へ登頂した。

トク翁からの聞き書きとして、「大雪山」の地名解を、「又タプ・カ・ウシ・ペ(nutap-ka-us-pe)一(安足間川を遡った所にある)湿原の【沼ノ平】の上に・いつもいる・者【山】」と、新説を提起した。

現在では、旭岳温泉から、大雪山旭岳ロープウェイを利用して、旭岳には簡単に登る事ができる。しかし、往時は高橋不二雄の例でも分かるように、安足間川を遡り、【沼ノ平】を通じて、旭岳(「ヲフタテシケ」)に登頂したのであった。

掲載地図は、平成三年発行の国土地理院の五万分の一地形図の「旭岳」である。「大雪山」のアイヌ語表記が、正書法ではないが、「又タプカウシペ」となっている。山田秀三説が採用されているのである。

(アイヌ語地名研究会幹事 ※毎月第1週号に掲載します

